

1 5 . 保全すべき草原に関する提言

阿蘇地域の草原景観保全や希少動植物保護上重要な地域については、次のような検討が必要である。

景観の雄大さや構成要素に配慮した草原維持の仕組みづくりや保全事業
希少動植物の生息・生育環境における具体的保護対策の実施

重要地域であり、且つ今後農畜産業による従来の維持管理が困難な場所については、上記に加え次のような検討が必要である。

多様な草原タイプ（放牧地、採草地、茅野、湿地）保全のための効率的な管理方法の検討～行政や民間による草原保護事業の検討

景観の雄大さや構成要素に配慮した草原維持の仕組みづくりや保全事業

ワーキンググループC（合意形成に関する検討グループ）のアンケート調査結果（後述）において、阿蘇でいいと感じた風景として観光客の8割近くが“草原が広がる風景”と回答しており、草原の印象として“雄大である”、“広々として伸びやか”というイメージを挙げる人が多かった。また、地域住民、観光客への景観調査の結果も、北外輪ミルクロード沿いに広がる雄大な草原の人気が高かった。

また、阿蘇山のランドマークである米塚や牛馬が放牧されている草千里といった景観も住民・観光客のどちらにも人気が高く、広大さのみではなく、地形的なおもしろさや、牛馬がのんびりと草をはむ風景、草原に咲く花など、阿蘇を代表する景観の構成要素についても着目して考える必要がある。

このため、地域の資源であり国立公園の重要な要素でもある雄大な草原景観を今後も維持していくために、地域住民と関係者における仕組みづくりや保全事業を考えていく必要がある。

希少動植物の生息・生育環境における具体的保護対策の実施

希少動植物における生息・生育環境の保全については、現在、具体的対策を講ずべき時に来ている。特に希少種の多い採草地や湿地は近年減少が進んでおり、危機的な状況に瀕しているといえる。このため早急に守るべきところを決め、対策を検討する必要がある。

多様な草原タイプ（放牧地、採草地、茅野、湿地）保全のための効率的な管理方法の検討～行政や民間による草原保護事業の検討

景観保全・希少種保護のどちらにおいても、重要地域である草原が適切に維持されることが前提条件である。

各草原タイプ（放牧地、採草地、茅野、湿地）は、これまで農畜産業や生活の営みの中で区別されて維持されてきた草原であり、それぞれに管理方法は異なる。今後も、従来通りの方法で維持管理されることが望ましいが、近年は農業形態の変化や畜産農家の高齢化に伴い維持管理が困難な牧野が増えている。このため、重要地域であり、かつ従来の管理方法での維持管理が困難な場所については、今後新たに各草原タイプに見合った効率的（省力的）な管理方法を検討することが必要となる。このためには、行政や民間が何らかの形で援助、または主体的に実施することが必要である。